

2023年神奈川県合唱祭参加

《男声合唱組曲》「富士山」Ⅱ 作品第肆について

・この曲は、神々しく雄大で猛々しい富士山に反して、裾野に広がる穏やかで平安な富士山の違った一面を歌っています。力みのない声で、明るく楽しく歌いたいですね。

・言葉で注意したいのは、「は・ひ・ふ・へ・ほ」が「あ・い・う・え・お」に聴こえないように、はっきりと発語してください。

・随所にホ短調（Emoll）やニ長調（Ddur）などの和音が出てきますので、練習の時にきれいにハモるようにしましょう。

・10 頁 1 段目 4 小節から 2 段目の 1 小節は、（ひかりはまぶしくあふれ）はノープレスで繋げてください。

・10 頁 2 段目の 3、4 小節は（そよかぜが）でブレスをして、（ふけばひかりたちのおにごっこ）まで一息に歌ってください。

・10 頁 4 段目の（よしきりはなく）は、「は」を大きく歌わないで、「なく」を丁寧な歌ってください。

・11 頁 2 段目 4 小節（うまごやし）の「ご」の音程に注意してください。ミ♭です。

・12 頁 2 段目 4 小節からは、楽しく明るく歌ってください。

・13 頁 1 段目 2・3 小節（そのたびにふじはちかづき）は、テンポを遅くしないで、「き」から rit してください。

・13 頁 2 段目 2・3 小節（みみにはよしきり）は a tempo で遅く歌わないで欲しい。

*他にも細かなところがありますが、練習の時にお伝えしたいと思います。

《尾崎喜八の詩から 第二》 VI.野辺山ノ原について

この曲は、レジェンドが初めて参加した神奈川県合唱祭に於いて歌った曲で、感動的な演奏であったと記憶しています。今回は再演となるわけですが、前回とは違った演奏ができればと思っています。

詩を読んでお分かりのように、全文が日本古来の五七調で書かれています。

詩を読むだけで音楽を感じますね。この五七調を歌うにあたっては、「五」と「七」の頭の言葉を、丁寧に、はっきりと発語してください。

(いまははや むとせのむかし) そのことによって、美しい日本語として聞こえてきます。この曲は、それほど難しい曲ではありませんが、いかに詩の内容を伝えられるかが鍵となります。情景がすぐ目の前に展開している様に歌えれば最高です。

- ・五七調のため、3小節は**ノーブレス**で歌ってください。

- ・3小節目に二分音符の和声（和音）が来ますので、良いハーモニーで歌えればと思います。

- ・25小節からは、B1とB2が主旋律を歌いますので、T1とT2は音量は控え目に。B1とB2は、力まずに和らかな声のレガートで歌ってください。

- ・41小節からは、T1とT2が主旋律となりますので、B1とB2の音量は控えてください。

- ・この25小節～56小節までは、掛け合いになりますので、各パートともテンポを崩さないようにお願いします。

- ・56小節までは、野辺山の風景が歌われていますが、57小節からは、二人の若者が登場して、人の温かさに触れた感動が表現されています。そのために、56小節と57小節の間を少し間をおいて（詩人の道に迷っている様子を表現）場面転換して歌いだします。

- ・この曲のクライマックスは、89小節からで、心から歌い上げてほしいです。また、101小節からコーダ105小節までの和音展開は、最後の決め所なので、練習の時にハーモニーが決まるまで、時間を割いてやりたいと思います。

*他にも注意点がありますが、練習の時に伝えしますので、よろしくお願いします。

2023・4・28

佐藤幸雄